

ヘファイステイオン・フリーズの図像プログラムについて

小松 誠 (フライブルク大学)

古代都市国家アテナイに建てられた鍛冶を司るヘファイストスとアテナを祀る神殿（ヘファイステイオン）の東西フリーズは、その様式から前430/420年代に年代づけられる。西フリーズでは、婚礼の場で泥酔し、女性や子供に暴力を振るったケンタウロスとギリシア人の戦闘が表現されている。東フリーズには、武器を手にするギリシア人と岩で戦う裸体の敵、戦いを見守る神々、さらにギリシア人によるこの敵の捕囚と見られる場面が表現された。

J. McInerney (2014, 2021) および A. Stewart (2018) は、東フリーズの場面を歴史時代以前の出来事、すなわちアテナイ人によるペラスゴイ人のアテナイ追放と論じる。ペラスゴイ人はアテナイの太古の住人であり、岩を用いた技術に長けた非ギリシア系住民であったと歴史家ヘロドトスは記す。続いて、アテナイ人女性への暴行やアテナイ転覆を企図した故、ペラスゴイ人はレムノス島へ追放されたとこの歴史家は述べる。

ヘロドトスの記述と東フリーズの図像の比較から、ここでギリシア人の敵として登場する裸体の戦士をペラスゴイ人とみなす解釈を報告者は妥当と考える。しかし、東フリーズは戦闘場面とそれを見守る神々を表す故に、その主題はペラスゴイ人追放とは考えにくく思われる。本発表では、この点を踏まえて、東フリーズの主題を再検討し、東西フリーズを関係させる図像プログラム解釈を提案したい。はじめに、東フリーズの主題を再検討する。ヘロドトスによれば、太古のアテナイ人はペラスゴイ人と戦うことなく彼らを自国から追放し、前6世紀末のレムノス島攻略の際にアテナイ人がこの敵に勝利したという。加えて、当時のギリシア人の歴史上の戦闘とそれを見守る神の姿を表現した、同時代の複数の作例が知られる。ヘロドトスの記述及び前5世紀の戦闘を表現するこれらの並行作例にもとづいて、前6世紀末頃にレムノス島で起きたアテナイ人とペラスゴイ人の実際の戦闘が、東フリーズの主題と発表者は考える。

続いて、東西フリーズにおけるギリシア人戦士とその敵たちの表現について以下の点を検討する。ケンタウロスもペラスゴイ人も女性や子供に暴力を働き、神への冒瀆（ヒュブリス）を犯した存在であったと古文献に記される。両フリーズにおいても、彼らは衣服を纏わず、加えて岩や木の枝を用いて原始的な戦い方をする者として登場する。対して、武器を手を持つギリシア人戦士はケンタウロスとペラスゴイ人から女性や子供を守る者として両フリーズに表されている。このように、両フリーズにおいてケンタウロスを前6世紀のペラスゴイ人になぞらえることで、広く知られた伝統的なケンタウロマキア図像に、前6世紀のアテナイ人とペラスゴイ人との戦闘を暗示させる新たな役割が与えられていたとする推論も提案したい。